

since 2002  
MORI NO KO

# 森の子

野外保育

10月31日に第2回森の子まつりが開催されました。森の子の子ども達、先生、保護者・・・みんなの力を結集したまさに森の子の一大イベントです。各担当の人にまつりのレポートを書いてもらいました。

<http://www.ultraman.gr.jp/morinoko/index>

## 森の子まつり2004特集号

2004年12月吉日発行



みんなの気持ち  
がひとつになったね

まつりが終わって  
ほっと一息  
みんなどうだった？

まつりを終えて  
お父さんの感想

「私の子ども」から  
「私たちの子どもたち」へ  
長野県教育委員会事務局  
こども支援課 丸山雅清

協賛していただいたお店  
るんぴこ  
カフェ ジャルタン  
せせらぎ農園



みんなのきもちが、ひとつになったね。  
まつりが終わってほっと一息、みんなどうだった？



since 2002  
MORI NO KO

## 森の子 T シャツ

まつり当日スタッフが一目で分かるように森の子特製Tシャツを作りました。

我が家にあったプリントゴッコのT シャツ版。お役にたてられる時がきて本当によかった！子供達のいろんな絵で作ろうと思ったのですが、版下を作るのに線だけで書いた絵だったので、結局Mちゃんの絵で作る事にしました。とってもかわいかったでしょ。版下はプリントゴッコと一緒に「ピカッ」とやったらできあがり。後は完全手作業...一枚一枚版下を置いてインクをツーツとひいて出来上がり。うまくいったかな？とドキドキしながら版下をとると...ひえー薄かったーもう一回！とか、ギエーなんでこんな所にインクがついちゃうんだよ～！など結構集中力を要する孤独な作業でした。50枚は越えていたと思うのですが、部屋中に広がった森の子Tシャツを眺めては1人微笑んでいたのです。さーて、片面の印刷が終了乾いたところで反対面の印刷。それが乾いたらアイロンをかけて袋に入れて、出来上がり！森の子まつりではあんなに沢山のお客さんがいたにも関わらず、森の子の子供達と保護者なんかが目で見つける事ができたので良かったなーと思いました。今度森の子Tシャツ作って売りましょうか？

高橋

since 2002  
MORI NO KO

## 駐車場係・森の子紹介コーナ

—

当日の混雑を避けるために駐車場の案内看板を作りました。  
また、森の子紹介コーナーとして  
森の子の活動を掲示板に貼って  
まつりに訪れたお客さんに見ていただきました。

『森の子まつり、楽しかったね!』駐車場係...ではありましたが、  
いくつになってもお尻に火がつかないと動きません。(ギリギリに  
なってから宿題をするなー!と日々子どもたちに怒鳴っているのも  
ワタシです。)まつりがいよいよ近づき、そろそろベニヤ板を買わ  
ねば、と買いにいき、あら、ペンキがなかったわーといっ  
て買いにいき、りんちゃんとふたり、夕暮れ時に看板を作りながら、  
「高校のころの文化祭を思い出すねー」とひとしきり思い出に浸っ  
ておりました。看板書きて結構ワタシ好きなんです。しかし、ベ  
ニヤとペイント用品に3,000円以上使っちゃい...皆様ゴメンナ



since 2002  
MORI NO KO

## フリーマーケット小学生コーナー



6年生のおおちゃんを中心に、こども達が頑張りました。朋子さんが羊毛を用意してくれて、みんなで人形やリース、お寿司(!!)など、大人にはまねできない楽しい作品を作ってくれました。古着は、小さすぎるサイズや大人のもののは売れにくかったようです。有明の家から提供していただいた子供のおもちゃがとても人気で、よく売れてました。来年は、そういったその場で遊べるようなおもちゃもあれば(販売が体験で)いいかなあと思いました。 網脇





since 2002  
MORI NO KO

## 受付係

~たくさんのお客様に行き会うことが出来た  
幸運な受付係~

いつ雨が降ってもおかしくないような空模様の中、お祭りが始まる時間が近づきました。朝の天気予報はいつになく強気な声で雨が降ると言っていたので、準備をしながらも心配していました。ところが、開始時間前に、こんにちわ... と、お客様の声。そこには、祭りを楽しみにして早くから来てくださった方々の笑顔がたくさんありました。次々にお客様がいらして下さり、さっきまでの不安はアッという間にふきとんでしまったのでした。ボランティアで受付係に参加して下さったMさんと一緒に、嬉しい忙しさでした。母子連れ、地域の知人関係等のほかに、今年はお父さんお母さん子供たちという家族単位でのご来場が多く感じ、そのことが嬉しく思われました。どの方も、受付での記名に快く応じて下さり、そのためお茶券(子供達の御茶屋さんで用いる)の配布は広く行きわたったと思われまます。皆様、有り難うございました。途中雨がパラッと来たため、急遽物干し台とブルーシートを使って屋根を作りました。我ながらナイスな考えだったと思いますが、来年はもう少しおしゃれに屋根が作れたらいいなあと考えております。最終的に、250人以上の方が、お祭りに来て下さいました。どの方も、にこにこ笑顔で受付に来て下さり、私の方が元気をいただいたように思います。ありがとうございました。 小久保

since 2002  
MORI NO KO

## フィールドビンゴ

昨年のお祭りでのお散歩のかわりに、多くの人に森のフィールドを歩いてもらおうと企画したフィールドビンゴ。カードに地図というんなおさがしものリスト。どんぐり、まつぼっくり、きのこ、だんごむし、あり、てんとうむし、とんぼ、ふわふわしたもの、ちくちくするもの、いろいろな色の葉っぱや木の実、野の花、。さる、りす、とりの声。いいにおいのするもの、そしておやつ。おやつはいつもみんなが立ち寄りもみの木と森の子の畑にかくしておきました。参加してくれた子供たちは、はりきって森へ畑へと出かけて行きました。帰ってきて、どんなものを見つけたか一人ずつ聞いてみました。「こけがふわふわだった」とか、曇天の中「一匹だけとんぼみつけたよ」「森の奥でりすにあったよ」「赤いきのこばかりだった」... いろいろな声が聞けて楽しかったです。 臼井記





since 2002  
MORI NO KO CAFÉ DE もりのこ 子供コー

今年の森の子まつりでは、森の子の子供たちが  
ウエイター・ウエイトレスになって喫茶店をやるう！ということになりました。

まず、雨の日にお茶券を作りました。色紙に押し葉を貼ってリボンを通す穴をあけリボンをしぼりました。それから、森の子に落ちてくるクルミでクッキーを作ることになりました。みんなでクルミを集めて、洗って殻を割りました。依田先生とOBのKさんがココア&クルミクッキー、かぼちゃクッキー、ほうれんそうクッキーを作ってくれました。透明な袋にテントウムシやクローバーのシールを子供達が貼り、クッキー3種を入れたらカラフルでかわいい詰め合わせセットのできあがり。さて喫茶店の名前はなにしようか？レトロに「喫茶もりのこ」がいいかな。それとも「もりのこ茶屋」・・・？子供達に相談してみたら「カフェもりのこ」がいい！ですって。さすが現代っ子です。クルミの殻を使ってステキな看板ができました。

さあ、ちびっ子ウエイター&ウエイトレスさんの予行演習です。先生が「お茶券配り係り、お茶券切り係、お茶入れ係り・・・」といろいろな係りをつくってくれました。「どの係りをやりたいか、手を上げてね」「ハーイ」あれもこれもやりたくて次々に手を上げる子供たち。そんなにいろいろできるのかなぁ・・・？

いよいよまつりの日がやってきました。「CAFÉ DE もりのこ」のテーブルにずらりと勢揃いしました。フリルのついた三角巾とエプロンですっかりウエイトレスに変身したYちゃんとMちゃんがお茶券を配ります。Maちゃんは手際よくお茶券を切り、Tちゃんがお茶を入れます。RちゃんNちゃんHちゃんが、小さなお盆にコップをのせてお茶を運び・・・「どこに持っていけばいいの？」「あそこの赤いセーターの人よ！！」人ごみをかきわけ、お茶をこぼさないように、目的の人のところへ行くのは至難の業です。「クッキー欲しい人はこの箱へお金を入れてくださいーい」Mちゃんがお金係をやってくれました。クッキーの入ったかごをお客さんへ持っていくのはDちゃんRちゃんの仕事です。そのうちにパネルシアターが始まるよー」という声が聞こえてきました。すると、ちびっ子ウエイター&ウエイトレスさんたちは、あっという間にパネルシアターの席へ飛んでいってしまいました。そうだよ。森の子のみんなも見たいよね。

・・・ということで、その後は大人ウエイトレスが頑張りました。午前中の忙しい時間は依田先生のお母さんに手伝っていただきました。ありがとうございました。クッキーはさくさくおいしくて大好評でした。お茶券も全然足りなくなるほど、たくさんの人に来てもらいました。

小川



# 招待状・案内

日頃お世話になっている近隣の方に案内状を作りました。  
また、森の子の活動を広く知っていただくために  
行政や教育関係の方々にも案内状を送りました。



「森の子まつり」の招待状・案内状は去年の見本がなかったので、全く新しく作り直しました。こどもたちのにじみ絵に、はがき大の紙を2枚貼り、グリーティングカードのようにしました。郵送のものと同手渡しのものがあったのですが、前もってスケジュールを決めていたのでスムーズに手配できました。日ごろお世話になっている方を初め、近隣の方、長野県知事、穂高町長、教育長、校長先生、園長先生など30名近くの方に配布したところ、多くの方に来場していただき、非常にうれしかったです。(北山県議、教育委員、福祉課の方、西穂高の園長さんも見学に来てくださいました)隣人の方からはその後御礼のお手紙もいただきました。内容を紹介させていただきます。(実際は子供たちも読めるようひらがなで書いてくださっていたのですが、紙面の都合で漢字に置き換えます)

「この間は森の子まつりにお招きいただきありがとうございました。小さなお友達がおもてなししてくれたあたたかいお茶とクッキー。おいしくてうれしくて、おなかも心もほかほかになりました。おそろいのTシャツを着て、みんな張り切ってますごいなあと思いました。おじさんもおばさんもいっぱい楽しませてもらいました。そして森の子のみなさんのことも、このおまつりでよくわかりました。本当にすてきな一日をどうもありがとう。先生やおうちの人たちと一緒に毎日森の中で思いっきり遊べるみなさんは本当にいいですね。これからも、キラキラした笑い声を森中に響かせて、元気一杯遊んでくださいね。お隣のおじさんおばさんより。」

森の子たちがワイワイしているのは、近隣の方々に、日ごろご迷惑ではないかと気にかけていただけに、非常にありがたい、あたたかいお言葉でした。招待状・案内状は次回もぜひ用意しておくと思います。 松田



いつもお世話になっているご近所の田中さんのお宅を訪問し、招待状をお渡ししました。

since 2002  
MORI NO KO

# おもちゃさん

雨が降るかな？と心配しながら迎えたまつりの日、みんなのパワーで雲も吹き飛ばし、お天気に恵まれお客さんもうっぱいの楽しい1日でした。お餅は10kgのお米を用意して3回に分けてつきました。ちゃんとお米が蒸かしているかしら？時間は間に合うかしら？と初心者の太田はうろろうするばかり。でもとも子さんとさゆりさんがしっかりフォローしてくれて、早め早めに準備ができました。辰口おじいちゃんのアドバイスでお餅をつく前に「塩をパラリン」とするとおいしいんですって！！お餅のつき方もおじいちゃんは抜群でした。余計な力を入れずに杵がちゃんとお餅をついている（来年はお父さん達頑張て！）隣で合いの手を入れるとも子さんさゆりさんとの息もぴったりで、あっという間につきたてのお餅のできあがりさゆりさんが卵大にお餅を分けてくれ（これがみごとで、他の人がやると大きすぎたり、小さすぎたり）、松田さんボランティアの方、小学生がお餅に醤油とのりをつけてくれました。森の子の子ども達が取ってくれた桑の葉にのせて、できあがり。2つ100円のつきたてのお餅はあっという間に売り切れたのでした。

～最後におあやまり。本当にごめんなさい！～

途中雨がバラついたこともあり、餅つき時間を早めてしまったため、チラシや看板を見て時間に買いに来てくださったお客さんに食べてもらえないことがありました。時間変更になったことを、早めに皆さんにお伝えすべきでした。 太田



since 2002  
MORI NO KO

# 父ちゃんのおでんや

のれん掲げて、いやダンボールの看板をパーゴラにガムテープで貼り付けて親父のおでん屋さん（だったっけ？）が開店。新聞で切り抜いて作った看板の文字とかわいい大根・卵・こんにゃくの絵がいい味を出してました。

空はあいにくの曇り空、トレーナーではちょっと寒いくらいの天気で、こう言っちゃなんですがまずまずのおでん日和。開店後の出足はまずまず、でもその後パタッと客足が止まってしまいました。でも、もちつきの度に人が集まってあれよあれよと売れていき、天気がなんとかもってくれたこともあって1時には完売。ホッとしました。あれで大雨だったら一体いくつ卵を食べないといけなかったんだろうか。来年やるときはなべの真ん中に木の板かなんかで仕切りをつくりたいですねえ。なべの奥深くに潜んだ大根を発掘するのがとっても大変でした。。

辰口（Maちゃんパパ）



# たき火パン

竹の先にパン生地を巻き付けて、たき火にかざしてパンを焼きます。  
子供たちはたき火パンが大好きです。

まつり前日に雨が降るかもとがっかりしていたところ、シャロムの健二さんが、ティピを作ってくれました。あっという間で、本当にすごい。当日は、“るんぴに”さんもおまつりがあり、とても忙しい中で生地を用意をしていただきました。有り難いことです。二次発酵をさせるために分量を計るのですが、慣れていないので（これを機にやってみるか〜）朋子さんとMさんの力を借りて準備ができました。この時点でもうわくわく楽しみです。E家の父と次男のY君で焚火は万全。初めはお客さんの入りがポツポツだったのですが、急に待っていただくほどの満席になってしまい、嬉しい限りでした。Eさんと、列になってしまうお客さんに声を掛け合っていました。パンの焼き方は、E家の父曰く...生地をどう竹に巻けば、うまく早く焼けるか見ていてコツが分かったとのこと。（勉強になります...）みんな楽しそうにパンが焼けるのを待っていました。いい香りに包まれ、焼いている間、会話も弾んでいるようでした。それに、焼き上がる頃は、顔が赤くなるくらい、身体がポカポカ暖まっているので、これもまた良かったのではないのでしょうか。焼けたら、りんごのジャム（せせらぎ農園さんの林檎で〜す）を自由に付けてもらいました。パンとジャムで幸せですね。ある男の子が、パンだけでいいと言いに来てくれました。そう、焼き立てのパンは何も付けなくても、とてもおいしい!!! 二回目の方もいて、嬉しくなりました。（パン屋さんの気持ちが分かるような気に）。雨が降って来る頃には売り切れて良かったです。みんなに喜んで食べてもらい、楽しんでもらえたのも“るんぴに”さんと“せせらぎ農園”さんのお陰です。本当に有難うございました。 田上



ティピ・・・簡易テント。雨が降り込まないようにたき火のまわりをテントで囲いました。



当日の朝はバタバタと忙しく駐車場の看板つけにかけずり回っておりました。たき火パンの準備はすべて田上さんにお任せでごめんね～。大変だったと思いますが、いつも通り彼女はひょうひょうとこなしてくれていました。

たき火パンはやっぱりとても人気があってたき火の周りはすぐにいっぱいになっちゃいました。うちのお父さんが一生懸命たき火の火をいい状態に保ってくれました。

たき火パンの何が一番難しいって、この火をちょうど良い状態に保つのが一番難しいんです。こどものころ風呂炊きをしていたと言うお父さん、さすがに上手。それでも「結構気を使った～」と言っていました。前日と言うか当日、

午前2時頃帰宅したらしく、(悪妻はぐーすか寝てた)ここんところ深夜まで仕事という日が続いていたからちょっと心配してましたが、なんとか倒れずにたき火係を全うしてくれました。お父さんありがとう。

お父さん実は餅つきもしたかったらしいんだけどたき火係に忙しく、いつの間にか終わってしまっていました。交代要員がもう少しいるとスタッフももう少したくさん楽しめたかも。でも、みなさんにたき火パンを楽しんでもらえてよかったな～。何はともあれ、おつかれさま～。雨が降らなくて本当に良かったね～。御天道様ありがとう！

BY ETO



ボランティアスタッフのうちのひとり、なぎちゃん。

りんごむき、どうもご苦労様。ありがとう。



since 2002  
MORI NO KO

# クラフト体験コーナー

## ～手仕事の会～

森の子には、お母さん方が心を込めて作品を作る「手仕事の会」というものがあります。10月30日に行われた森の子祭では、手仕事の会より、多数の作品が販売されました。羊毛という綿のようなものを、ニードルパンチ(ギザギザの切込が入っている針)でチクチク刺しながら、形を整え作る、野菜、果物、車や、動物達。他にも、同じ羊毛を洗剤の入ったお湯に漬けながら、フェルト化させた作品。木のツルを丸く輪に編み、木の実や薔薇の実、まつぼっくりなどをつけた、とっても素敵なりースや、壁掛け。草木染めとレインボー染めの毛糸や靴下など、他にも多数の作品がありました。祭の数日前の作品のラッピング作業では、見事なほどの作品が並べられ、祭り当日を待つばかりとなりました。

森の子祭り手仕事の会では、幼いお子さんをお連れのお母さんも、自宅でも多数の作品を作って頂き、本当に沢山のお母さん方の力を貸してもらえた事に、心から感謝しています。そして大盛況の元、多くのお客様に、お母さん方の心が心を込めた作品を通じ、心を買って頂いた事にも感謝しています。これからも、手仕事の会が、もっともっと飛躍出来る様に応援して、力を貸していただけたらうれしいです。みなさん、ほんとうにありがとうございました。 須藤

## ～木の実のペンダント キャンドルスタンド～

昨年にひきつづき、たくさんのお母さんが体験コーナーに来て下さいました。

たくさんのお母さんに目を輝かせている子供達・・・ステキなのを作ってネ、という気持ちをこめて、1つ1つ名前を焼きゴテで書きました。いざ子供達が作るうとバンドをつけはじめると「あっ、こうしたら」「ちょっとおかしいよ」とお母さんの声が・・・どこの親子もいっしょだななんて思いついて見ました。(私もついいろいろ言ってしまう・・・)そんな声にもめげずかわいい作品がたくさん並びました。やっぱり子供達のセンスってステキ なかにはお母さんの方が一生懸命な姿も・・・集中して何かを作るのって楽しいですね。自分で作ったものをお部屋に飾ると幸せな気持ちになりませんか?手仕事はいろんなことを気づかせてくれる楽しい時間です。来年のおまつりでも親子で楽しめる体験コーナーを考えていけたらと思います。

## ～おまけ～

「木の実達は、ほとんどこの森でひろいましたよ」と言うと、みんなビックリしていました。すべての木の実の名前がわからなかったのがちょっとハズカシかったです。勉強不足でゴメンナサイ。ひろうだけではダメですね。来年はちゃんと木の実の名前や葉もわかりやすく書こうと思いました。

浦野





美しい色に染め上げられた毛糸は朋子さん作



それぞれの個性が光る作品たち



動物の羊毛作品は人気でした



新聞係による「森の子だより」も販売



カラフルな羊毛の果物、野菜などなど・・・



羊毛セットはお手軽さがうけていました

since 2002  
MORI NO KO

# 手仕事の会 雑貨屋さん

手仕事の会ってほんとにすごい。木の実を使ったリースや羊毛の動物たち、草木染めの靴下、毛糸、どれもカラフルでほんわか、癒される～。Nちゃん率いるお母さん達の力って底知れぬものがあるわ。家事、森の子、育児があるかたわらでここまで大量の、しかも本格的な作品がしてくれるって素晴らしい！花丸！！うふっ。

- ・・・また、これはお母さんじゃないんだけどネ、Hちゃんのおじいちゃんの（！）ラブリーな作品群にはわたくし、脱帽しました。特に紫シメジ、ジコボウ、クリタケ？をフェルトで表現した、しかもカゴ盛りの「きのこセット」にはただならぬセンスが光っていたし、その他にも眠り猫、いもむしくんなどなど、予想通りお客さんにも大好評で午前中に完売してしまったのです。
- ・・・あとで買おう、なんて思ってた私は甘かった。開店と同時に、次から次へと途切れることのないお客さんたち。みんなががんばって作った作品をしっかりと売らねばと、私は思わず腕まくり。よおし、・・・と気合をいれて接客しました。お客さんたちは開口一番「これ、かわいいい～！」とやさしい表情で作品をながめ、ひとつひとつ丁寧に時間をかけてみてくれました。気に入って買っていつてくれる姿を見ると、とってもうれしいし感謝。手仕事の会のみんなに「きゃ～、ひとつ売れたよ～～！」と大声で叫びたいキモチでたまらなくなってしまうのです。 堤



ずらっと並んだお母さん達の努力の結晶！



身近な植物で草木染したシルク靴

森の子だより

森の子一大イベントということでお父さん達の力もお借りしました。

毎日仕事で忙しいお父さん。久々に森の子の行事に参加した感想を聞いてみました。

どンドン人が来る。どこで森の子まつりを知ったのかな。あれ、あの人、

どこかで会ったことがあるんだけど、名前はなんていったかな。

「お茶どうぞ」子供たちは見様見まねでおてつだい。

でも、気がつくところかへ遊びに行ってしまうと、お父さんお母さんは大忙し。

「お弁当の時間です！」「パネルシアター始まるよ！」あれれ、みんなもうチョココンと席についている。

魔法でも使ったみたいだ。たくましいね、森の子さん。 小川さん

<Cafè de もりのこ 従業員記>

森の子まつりでは、子どもたちと一緒に、「Cafè de もりのこ」のお手伝いをしました。従業員としての私は、ウチにいるときと同じく、あまり役に立たず、ご迷惑をおかけしました。森の子に娘を通わせる親としては、子どもたちからたくさんの感動をもらいました。先生やお母さん方に助けられながら、お客様がきてから席に案内してお茶を出すまで、実にシステムティックに行動していました。4才の我が娘も、神妙な顔でチョコチョコとお茶を運んでちゃんと働いており、ウチではみたこともない愛らしさに涙さえ出てきました（本当のことです）。今後も、このようにその場に集うみんなが生き生きできる企画を、なくすことなく続けてほしいし、私も微力ながら応援・協力したいと思います。 宗村さん

みんなよく頑張った。森の子の存在を少しずつでいいので増やせたらいいと思う。最後の子供たちの歌は主人公たちのすてきな発表の場だった。「まつり」をやる意味を、みんなでもう一度確かめあって次回につなげたらと思います。 浦野さん

それぞれのブースを担当された方々が皆その道のプロフェッショナルで形だけでなく、非常に中身の濃い催しだったと思います。日常なかなか経験できないことが、現実に目の当たりにできる。そのへんが大勢の集客に繋がっているように思います。改めて森の子の父兄の方々のセンスとエネルギーを感じます。

お客さんの数やその視線から「森の子」への関心の高さを感じました。また子供のことを真剣に考えているお父さんやお母さんが大勢いることを知りました。「森の子」の存在をアピールする為にも、「森の子のお母さんたち」の優れたスキルを開示する為にも、有意義なイベントでした。 松田さん

心配していた天気にも助けられ、スタッフの皆さんがそれぞれの持ち場で生き生きと活動している姿が、とても良かった。参加者が多く、森の子の活動に関心が高いことが伺え、そんな保育園に我が子がいることを嬉しく思う。

田上さん

まつりを終えて  
お父さんの感



## ～ 依田先生から～

子ども達は、森の子まつりをだいぶ前から、楽しみにしていました。昨年、森の子まつりを経験した年長児は、自分達が楽しかったり、嬉しかったり、おいしかったりといった時、決まって「これ、森の子まつりでやればいいじゃん。」と提案することがありました。今年の森の子まつりは、そのよう子ども達の発想が大いに発揮されたものとなりました。

森の子まつりの当日は、300人も人が訪れ、ふだん20人弱の森の子の10倍以上の大人数となりましたが、ひとつひとつのプログラムが普段の森の子の生活の延長でした。

毎日の生活の中でのお店屋さんごっこが「カフェ・もりのこ」になったのです。いつもは葉っぱのお金だけけれど、当日は、本物のお金をもらいました。チケットを渡す係、切る係、席へ案内する係、お茶をトレイで運ぶ係、クッキーを手渡す係、お金を預かる係、テーブルを拭く係、それぞれの係をしながらも、次の係へと連携をとっていた子ども達、そして、お客様をおもてなしすることができた子ども達の姿に生きる力、生活する力が身についていると感じました。クッキーの胡桃は、森の子の近くで拾い、フライパンで炒って割り、中身を取り出しました。また、お茶のチケットも、散歩できれいな花や葉っぱを集めて押し葉にしたものを貼りました。子ども達ができることは子ども達がやり、できないところを大人がやりました。子ども達主体の普段の生活が延長されたものだったので、無理なくやることができ、また、普段想像しているものが現実となり、楽しむことができたのだと思います。子ども達の歌もパネルシアターも、大勢の中でも、いつもに近い形でできました。きっと、そこに集ってくださった方々も、森の子の一員として温かい心で参加してくださったからだと思います。それは、おまつりの終了後、ほとんどゴミが落ちていず、道具類だけを片付けるのみで終わったことにも表れています。こんなにも多くの方々に森の子の活動を理解していただき、そして、ご協力頂き、嬉しく思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

ここに集った子ども達が大人達の心を動かし、大人達の行動を変えたのだと思います。ここで素晴らしい子ども達に出会わせてくださった保護者の皆さんにも感謝します。

恵み多き収穫祭、みなさん、ありがとうございました。



## ～ 実行委員・辰口さんより～

祭り前日の朝、「明日雨だって」と聞いたときのショックといったらありませんでした。「雨だったらきっとお客さん来ないなあ」とたちまち弱気になり、シャロムの畑で抜かせてもらうはずの18本の大根を、12本に減らしたのでした。そんな天気予報のせいもあって、大量のおでんの仕込がよりいっそう大変だったような…。しかし！あんなことがあるのですね。当日の天気ときたら、降りそうで降らず、そしてまるで森の子まつりが終わるのに合わせたような大雨。ムッレさんや神さまが「森の子」にはいるのかも？と思った1日でした。

思えばたった17人の園児の「森の子」のおまつりに260名もお客さんってすごいことだと思うのです。たくさんの方が「森の子」に興味を持って訪れてくれたこと、とてもうれしく思います。遥の友達のお母さんが「本当にいい所ですねえ」と言ってくれました。西穂高保育園の金子園長先生も来て下さいました。（その前に1時間ほど通常の保育を見学しに来られたそうです。）「こんな自然を西穂の子供たちにもぜひ体験させてあげたい」とおっしゃり、「互いに交流したい、「森の子」の子供たちもぜひ西穂へ遊びに来てください。」と言って下さいました。そうやっていけたらうれしいですね。先日の入園説明会に来てくれた伊那の林さんは、一人でおまつりを見に来てくれました。伊那でも週1回の野外教室をはじめた、とのこと。いずれは「森の子」みたいにしたい、とおっしゃって、立ち上げのときのこと、お金のことを聞かれました。分かる範囲で質問に答えたり、アドバイスしたりしながら（えらそーに！）、3年たって「森の子」はこんな立場になったんだなあ、とつくづく感慨深く思ったのでした。おまつりに来てくれたお客さんが何かひとつ胸に持ち帰って、それがいつかいろんな所で花開いてくれたら、本当にうれしいことです。

まつり本部として仕事をしながらいつも頭にあったのは、おまつりの準備をして主催するお母さんたちが「おまつりやってよかった。「森の子」ってやっぱりいいとこだなあ」と思って欲しい、ということでした。去年より保護者の数も増え、連携も取りにくくなり、お互いの仕事も見えにくい、でも皆がんばってるんだよー！と知って欲しくて「まつりつうしん」を出してみました。そうは言っても、まつりも近くなってくると「大変だなあ」とってしまうことも多かったと思います。先生も含めて、家へ持ち帰っての仕事、見えないところでの作業がたくさんあったと思います。本当にお疲れ様でした。当日も全員がそれぞれの持ち場でくもくと仕事をしている姿を見て、感謝の気持ちでいっぱいでした。特に赤ちゃん連れのお母さん方、疲れ方も2倍だったでしょうね。ごくろうさまでした。

それにしてもおわりの会での子供たち、何てすてきだったでしょう。黄色く色づいた背景の森に溶け込んで、歌は森にひびき「ああ、この子達は『森の子ども』なんだなあ」と深く実感したのでした。みんな堂々としていて、とっても頼もしかったよ。というわけで、とにかく無事終了！るんにさん、せせらぎ農園さん、パネルシアターをしてくれた織田さん、丸山さん、ボランティアの皆さん、先生、すべてをサポートしてくれた健二さん（精神的にも）朋子さん、一緒に本部をしてくれた小川さん、のんちゃん、今年もおもちつきに来てくれた義父、クラフトで8000円も買ってくれた義母も含め、まわりの人みんなに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

ムッレ・・・森に住む妖精





ボランティアスタッフの皆様、お忙しい中お集まりいただき、また森の子まつりにご協力くださいまして誠にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。 森の子一同



森の子まつりを開催するにあたり、会場になる場所と必要な道具類をこころよく提供してくださった、白井健二さん朋子さんご夫妻に心より厚く御礼申し上げます。 森の子一同

# 協賛していただいたお店をご紹介します。

まつりを開催するにあたりいろんなお店に協力していただきました。本当にありがとうございます。  
日頃から森の子が大変お世話になっているお店に伺って森の子に対する思いを話していただきました。

## るんびに

毎年まつりではたき火パンのパン生地を提供していただいています。散歩の途中に森の子の  
子供達がパンを買いに伺うこともあります。ワイワイガヤガヤとにぎやかな子供たちをいつ  
も暖かく迎えてくださいます。るんびにのまりこさんにお話を伺いました。

私は息子が精神的に傷を負ってしまった事をきっかけ  
に  
有明の家と関わるようになりました。今は有明の家の研  
修  
生をるんびにに受け入れることで精神的に傷を負って  
しま  
った人たちの社会復帰のお手伝いをしています。私は  
有  
明の家と関わる中でまた私自身の経験の中で幼児期  
の  
親と子の関わり方の重要性を強く感じました。私たち  
は世  
間の価値観にとらわれてしまっているのではないでし  
ょうか？もっと大切なこと「ありのままの心の声に耳を傾  
けること」を忘れてしまっていないでしょうか？森の子  
の取り組みそして親子の関わり方を見ているととても素  
敵す。森の子から教えられることもあり、勉強にもなるし、  
一生懸命頑張っているのを見るところるんびにのででき  
ることを応援したくなります。森の子での貴重な体験に  
るんびにのパン生地を使ってもらって感謝しています。  
親と子の間に自然が入ることによってとてもいい環境  
が保てていると思います。自然は子供のありのまま  
を受け入れてくれます。そして子供の持っている飾ら  
ないありのままの姿を引き出してくれる。そして曲がっ  
たものも 修正できるそういう力が自然にはあると思う  
のです。ある意味で森の子は自然にはぐくまれた癒し  
の場ではないかと思 います。私はこの寒さ、景色、  
人、自然が好きです。時 間に追われるのではなく  
共に心地よい時を過ごす事ができたら。自然と人との  
つながりの中で癒し、癒される、そんな 関係を大切  
にしていきたい。そしてそういう輪が広がっていくと良

### 営業時間

9:00~18:00(5~8月)

9:00~16:00(9~4月)但 売切まで

♥全国に発送しています。

ご予約は前日までをお願いします。

〒399-8301

長野県南安曇郡穂高町有明8011-1

Tei/Fax 0263-83-8078

## 取材を担当したMさんの感想

おいしいパンを作るには、素材へのこだわりだけではなく、作る人の気持ちも大切です。一つ一つ愛情を込めて作られたパンは食べる人の心まで癒してくれます。るんぴにはそんなパン屋さんだと思います。

15

# Café ジャルダン

当日森の子の子ども達のおやつとして「祝森の子」と書かれたカードが添えられたバスケットいっぱいのパンをいただきました。Café ジャルダンの平子さんにお話を伺いました。

東京の西町にインターナショナルスクールという学校があります。この学校では幼、小、中の一貫教育が行われていて主に外国人の子供や帰国子女が通っています。もちろん日本の子供も通っていますが国際的な環境なものですから共通語として英語が主に話されています。私はその子ども達に7年間スキーを教えた経験がありますがそこで子ども達に教えられたことがあります。それは子供自身が自分が何者か知っていて自分の中に揺るぎない「核」のようなものを持っているということです。そしてその「核」なるものが作られる時期、つまり自己形成の時期として幼児教育の重要性を痛感しました。自分の意志で好きか嫌いをはっきり主張できること、自分のために自分は生きているという認識を持って生きることがいかに重要かということです。今、能力主義を追求するあまり教育に歪みができているように感じます。大人数の中では誰かにあわせていれば、つまり長いものに巻かれてしまえば楽だし、世の中からもそう求められていたかもしれません。しかし、その中で私たちは自分を見失っていなかったでしょうか？そういう傾向が精神の幼児化を招いているのではないのかと思うのです。このことは親にも問題があるのではないかと思います。それは子供は親を映す鏡であり、子供社会の歪みは大人の問題であると考えからです。しかし、今の現状を変えられるのも親であり、子供なのです。私たちは恩恵を受けることになってしまってそれが当たり前のこととってないでしょうか？当たり前のことにとどれだけの年月と人々の努力がはらわれてきたか感じる心を失ってはいないか。鈍感になってはいないか。今、原点に返ることが無駄なように見えるかもしれないけれ

### <Café ジャルダン>

県内産の地粉や地元の減農薬、無農薬食材を使用した体にやさしいメニューです。

#### 営業時間

7:00 ~ 17:00 定休日 木曜

〒399-8301

長野県南安曇郡穂高町有明2189-3

TEL/FAX 0263-83-6209

### Café ジャルダンとお友達のUさんのご意見

夫婦の人柄がよく出ているパンだと思います。とにかくうまいっっっ。シンプルなパンが多く、サンドイッチには 最高のパンです。私はベーグルが一番好き。是非食べてみてください。

ど大切なことだと思っております。森の子は幼児期の人間関係の基本を築く場だと思っております。小さいうちにどれだけ自由な発想が持てるか、また、持ち続けられるかということが重要なことです。自然のなかで培われた感性をもとにやがて森の子の子供達がメッセージを発信できるような大人に成長してくれることを期待しています。あまり無理をしないで、まずは自然体で、今できることに取り組んでください。

## せせらぎ農園

北アルプスの麓梓川村より、毎年森の子にリンゴを提供・寄付していただいております。せせらぎ農園さんは、原 志朗・明子ご夫妻により営まれています。明子さんは年中の男の子の子育て真っ最中の素敵な母ちゃん。どの様な想いで森の子に関わってくださっているかお聞きしてみました。

～りんごに想いを託して～ 原 明子

お元気でお過ごしですか？私達もお陰様で元気に過ごさせていただいております。森の子はとても素敵な活動をされていると思います。近くに住んでいれば、子供も行かせたいなあと考えたりします。森の子の子供達をもちろん応援していますが、さらに、私はお母さん達を応援したいと思っています。活動は立ち上げることも難しいと思いますが、続けていくことはさらに大変。そんな時、微力ながらも応援したいのです。疲れたり落ち込んだりしたときに、美味しいものを食べると、少し幸せな気分になることってありますよね？私達のリンゴで、ちょっと元気が出たら、本当に嬉しいです。畑で脚立に乗りながら、胸一杯に空気を吸いました。「おーい、元氣かーい。みんなたいしたもんだー。さあ、一息入れよう。りんごでも食べてさ。」届け、あなたに。応援果。

### <せせらぎ農園>

原 志朗・明子

〒390-1702

長野県南安曇郡梓川村梓2505-2

TEL / FAX: 0263-78-5139

せせらぎ農園さんでは、化学肥料は使わず、茶葉やコーヒー粕などを発行させ堆肥にしたものを畑に施しています。農薬散布量も通常の3分の1から半分くらい減らし、出来るだけ美味しいもの、安全なものと考えてリンゴ栽培に取り組んでおられます。私も実家に送らせてもらっていますが大好評。安全である上にこの美味しさは如何ほどの努力が詰まっていることかと思わされます。

K

### りんごの注文方法を伺いました。

ご依頼主と送り先様、品番、数量を紙に記入の上、FAXで申し込んでください。

(品種)ふじ (発送時期 11月下旬より)

(支払方法)後日、振り込み用紙をご依頼主にお送りいたします。お近くの郵便局にてお振り込みをお願いいたします。

	品番	価格	
りんご贈答用	10kg	ぞ10	6300 + 送料
	5kg	ぞ5	3360 + 送料
りんご自家用	10kg	自10	5250 + 送料
	5kg	自5	2835 + 送料
ジュース	6本	J6	3675 + 送料
	12本	J12	6825 + 送料

## 取材を終えて小久保・宗村

お世話になったお店の皆様本当にありがとうございました。森の子に対する熱い思いを語ってください森の子はいろんな人に支えられているんだ！としみじみ思いました。紙面にはほんの一部しか載せられないのが残念です。お話を伺うことで私自身とても勉強になり気づきの多い充実した時間を持たせていただいたことに感謝いたします。つたない文章できちんと思いが伝えられるか不安です！そして他のお母さん達にも聞かせてあげたかった！！と強く思いました。またいつか森の子にお迎えしてお話を伺える場が設けられたらいいな。そんなことまで夢見てしまいました。最後にお忙しいなかを突然おじゃましたにもかかわらず気持ちよく迎えていただき貴重な時間を割いていただいて本当にありがとうございました。

17

## 編集後記

毎年2学期になると、森の子のお母さんたちはそわそわと落ち着かなくなります。ふだんの家事や育児に加え、それぞれに与えられたまつり準備の係活動で忙しくなるからです。まだ時間があるわなんて思っていると、あっというまにまつり前日、きゃあどうしようなんてこと、きっと誰もが経験したことがあるのではないかと思います。まつりの準備に体力を使い果たしてしまい、まつり当日には心身ともにぐったり、楽しむ余裕も残ってはいません。しかし、それでもお客さまが来てくださると本当に嬉しいし、この日のために準備してきてよかったと確かな手ごたえを感じるのです。おたよりを編集しながら写真を整理していると、みんな輝いていておもわず見とれてしまうほど美しい表情をしています。全ての写真を掲載できればよいのですが、スペースに限りがあるのでここでは割愛させていただくことにしました。ほんの十数家族が集まっただけの森の子ですが、森の子をご理解くださる方々のあたたかいご協力をいただき、こんなにも素晴らしいまつりを創り上げることができました。心より厚く御礼申し上げますとともに、たくさんの方々から森の子のことを知っていただけたことに感謝いたします。また、長野県教育委員会事務局こども支援課の丸山雅清さん、お忙しい中、森の子だよりに寄稿いただきましてありがとうございました。 つ



レポート形式で記事をお願いし、後でまとめたのですがみんな記事の依頼を快く受けてくれました。そしてこのような形として残すことができたことに感謝いたします。御協力ありがとうございました。個人的には去年お客さんとして娘と参加してとても楽しい一時を過ごしましたがスタッフとしては初めての参加でした。7月に息子が生まれ、若干4ヶ月の乳飲み子をおんぶしての参加でした。実際、私のような「おんぶ組」(赤ちゃん連れ)も大勢いましたし、次年度の園児募集説明会その他行事も盛りだくさんでそれぞれが多忙を極めていました。そんな中でこの一大イベントを成功させるのは至難の業(?)だったと思います。これも日頃からのチームワークの賜といえるの